



2009年9月29日

各 位

会 社 名 イオン北海道 株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 植村 忠規
(コード番号 7512 東証1部・札証)
問 合 せ 先 取締役執行役員
 管理本部長 天廣 俊彦
 (T E L 011 - 865 - 9405)
当社の親会社 イオン株式会社
 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号 8267 東証1部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2009年4月6日の決算発表時に公表した2010年2月期第2四半期累計期間の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 2010年2月期第2四半期累計期間業績予想数値の修正(2009年3月1日～2009年8月31日)

(1) 連結

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	76,000	200	225	380	3円66銭
今回修正(B)	75,639	271	158	154	1円49銭
増減額(B-A)	361	71	67	226	
増減率(%)	0.5	35.5	-	-	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2009年2月期第2四半期)	80,183	477	76	995	9円59銭

(2) 個別

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	76,000	25	230	380	3円66銭
今回修正(B)	75,639	55	62	96	0円93銭
増減額(B-A)	361	30	168	284	
増減率(%)	0.5	120.0	-	-	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2009年2月期第2四半期)	80,183	212	67	1,002	9円66銭

2. 修正の理由

当第2四半期累計期間における当社を取り巻く環境は、昨年来の世界的経済の停滞に伴う個人消費の減退により節約志向が一段と進み、依然として厳しい状況下にありました。

このようなお客さまの生活防衛行動に対応すべく「ベストプライス by トップバリュ」などによる低価格訴求やオープンプライスの引下げによる一人当たり買上点数の増加に取り組みましたが、売上高は当初予想を0.5ポイント下回る見込みとなりました。

売上総利益率においては、イオングループの共通システムの活用による在庫、ロスの削減を徹底するとともに、環境問題対策も含めた食品の廃棄売上の削減に努めましたが、低価格政策による利益率低下を補うまでには至らず、当初予想を0.7ポイント下回りました。

販管費においては、「収益構造の改革」を継続的に実施して、人件費、設備費の削減に努め、また、売場・後方オペレーションの効率化等によりローコストオペレーション体制に向けて積極的に取り組み、当初予想より2.7ポイント削減致しました。

その結果、売上高につきましては当初計画を361百万円下回る予定ですが、営業利益・経常利益・当期利益ともに当初計画を上回る予定です。

なお、個別の経常利益が増加した理由は、子会社であります(有)ティ-ウィンからの匿名組合配当金と貸付金利息が、9月1日付の吸収合併による精算に伴ない増加したことによります。

また、通期の業績予想につきましては、2009年4月6日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想を修正しておりません。

上記記載の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上